

## 第6学年1組 外国語科学習指導案

第4校時 場所 6年1組教室 授業者 弘島 智世

ALT Jason Cole

### 1 単元名 Unit 5 We live together. ～絶滅危惧種になりきって思いを伝えよう～

本学級の子どもたちは、自分自身のことや、家族や友達などの身近な話題について英語で伝え合う経験を重ねてきている。また、クラスメートや教師・ALTに対して、自分が伝えたいことを既習表現を用いて伝えようとする姿も見られる。その中で、よりよく伝わるためにはどのように伝えるとよいのか、表現や伝え方に着目しながら学び続けているところである。

本実践のトピックである絶滅危惧種は、私たちの日常生活の中で身近に感じる事が少ない話題である。だからこそ、トピックに対する子どもの興味・関心を高め、伝えたい思いを引き出す必要があると考える。その上で絶滅危惧種になりきってその思いを伝え合うことを設定することで、子どもが伝えたい思いをもって英語表現を使うことができるようになってほしい。

また、単元最後の表現活動は「書くこと」「読むこと」である。そのためには、上記のように話したり聞いたりする活動を通して表現内容に音声で十分に慣れ親しむことが大切であると考ええる。そのため、子どもが実際に行った音声表現をもとに書く活動につなげられるようにしていく。動物になりきり思いを伝え合う活動を通して、外国語を用いて表現することができる話題や内容の幅を広げ、相手を意識しながらコミュニケーションをたのしむ児童の姿を目指す。

### 2 単元について

- (1) 本単元では、絶滅危惧種についてのポスターを制作・読み合うことを通して“I live in / eat / have ---”などの表現に関する技能を身に付け、活用することをねらいとしている。

本実践では、音声面で伝え合う言語活動場面を“Fusho 6-1 English Speech”と設定し、子どもたちが動物になりきって思いを伝え合うことで、自分の表現内容を考えながら、本単元の英語表現に慣れ親しむことができるようにする。さらにポスターを書く活動では、音声での表現内容をメモや録音を用いて確認し、どの文をポスターに掲載するのかを考える活動を通して、絶滅危惧種の切迫した思いを表す英語の内容を再考することができるようにしたい。

- (2) 子どもたちはこれまでに、目の前にいる相手に対して自分自身や身近な人物や物事について表現する活動をしてきている。しかし、本単元では、絶滅危惧種という子どもたちにとって身近ではない話題に出合う場を設定する。その中で動物のおかれた状況を想像したり、動物たちの思いを表現したりする活動を設定することで、相手に伝わったのか、どのように感じたのかを確認しながら、自分が動物になりきって内容を考え表現することができるようにしていきたい。本単元での「なりきる」活動を通して考え英語で表現できるようにする活動が、中学校での「日常的な話題や社会的な話題」を中心とした学習の素地となると考える。

- (3) 本単元に関する子どもの実態は次の通りである。(調査人数36人)

- ① 学級の全員が既習表現を用いて簡単な自己紹介をしている。しかしその際、本単元の言語材料である“I want ---.”等を用いる子どもは少なかった。
- ② Unit 2の単元では、日本文化を紹介するポスターを制作した。そこでポスターを作成する際に子どもが気をつけることとして、「見やすさ・分かりやすさ」「情報」などがあつた。
- ③ 英語を書く活動に意欲的に取り組む子どもが多い一方で、不安や難しさを感じていたり、書くことに抵抗を感じたりしている子どももいる。

### 3 単元の目標

- (1) やりとりやポスターを書く際に、自分が選んだ動物のおかれた状況やその思いを音声や文字で伝え合うために“I live in / eat / have ---.”などの表現や関連語句を理解し用いることができる。
- (2) 自分が選んだ動物のおかれた状況や切実な思いを、どのように既習表現を用いて表現すると相手により伝わるのか考え、伝え合うことができる。
- (3) 自分が選んだ動物の状況やその切実な思いを、基本的な表現を用いて伝え合おうとしている。

### 4 指導計画（7時間取り扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	1 単元の学習の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ クイズや映像を提示し、聞こえた単語や表現を子どもに問うことで、動物に関する表現を使っていることに気付けるようにする。</li> <li>○ 取り上げた動物が絶滅危惧種であり、その種類や数が多いことを紹介し、事実に対する感想を問うことで、子どもの思いや願いを引き出し、子どもと本単元のGoalを設定する。</li> </ul>	<p>【知】動物についての短い英語を聞き、その内容をつかむことができる。</p> <p>（観察・振り返り）</p>
2 ～ 4	2 動物について伝え合う。 (1) 動物の生息地や食べ物などを伝え合う。 (2) 動物の特徴を伝え合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 動物を紹介し合う活動では、使用できそうな表現を問うことで、既習の表現を想起することができるようにする。</li> <li>○ 子どもが“eat”を使用する際は、食物連鎖の図を用いながら生き物同士の関係を子どもと共有することで、英語の語順に着目することができるようにする。</li> <li>○ クイズ活動の場を設定することで、動物の特徴を既習表現を用いて、その動物ならではの情報をより詳しく表現できるようにする。</li> </ul>	<p>【主】自分が選んだ動物について詳しく伝えようとしている。</p> <p>（観察・振り返り）</p>
5 ～ 7	3 ポスターをつくる。 (1) 内容を考える。 (2) 制作をする。 4 ポスターを読み合い単元を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時では自分が選んだ動物になりきり表現する場を設定する。その際、動物の立場で伝えたい思いの英語表現を共有することで、動物の思いがより伝わる表現を考えることができるようにする。（本時5／7）</li> <li>○ 前時に録音した英語表現を聞きポスターに載せる内容を精選する場を設定する。そうすることで口頭で慣れ親しんできた表現を、音声をもとに書くことができるようにする。</li> <li>○ ポスターを読み合う場では、感想を共有する場を設けることで、自他の表現のよさに気付くことができるようにする。</li> <li>○ 単元全体の思考や学びを言語化し、次の学びに生かすことができるようにする。</li> </ul>	<p>【思】既習表現等を用いながら内容を考えることができる。</p> <p>【知】ポスターに表記する内容を伝えるよう工夫して書くことができる。</p> <p>【思】友達の制作したポスターを読み、感想を伝え合うことができる。</p> <p>（観察・振り返り）</p>

## 5 本時の学習

### (1) 目標

自分が選んだ動物になりきり、動物の思いがより伝わる英語表現を再考する活動を通して、自分が伝えたい思いを英語で伝え合うことができる。

### (2) 展開

時間	学習活動	子どもの思い・姿
1 2	1 前時の学習を振り返り、本時の課題を確かめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分になりきる動物について、詳しく説明できるようになった。</li> <li>○ ポスターでは動物が困っていることや人間へのお願いを書かなくっちゃ。</li> <li>○ 読んだ人に「助けたい」「このままじゃいけない」って思ってもらえるようなメッセージを追加したいな。</li> <li>○ 教科書のポスターでは“I want ….”が使われていたから、欲しいものを伝えるといいのかな。</li> </ul>
1 5	2 動物の思いを伝えるために、どのような表現を用いればよいか考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 住んでいる森が少なくなってきたから “I want a forest.” かな。</li> <li>○ 私は「森が欲しい」という思いは一緒だけれど、人間に「森林伐採をやめて」って伝えたいな。</li> <li>○ やめてほしいことを表す言葉はなんだろう？ “stop” でいいのかな？</li> <li>○ 森林伐採って英語で表現したらいいのだろう？ 森林伐採って木を切ることだから “cut trees” かな？</li> <li>○ Jason 先生に確認したら “Stop cutting trees.” って言うみたい。</li> <li>○ 思いを伝える表現がたくさんあるな。どの表現を使うといいかな？</li> </ul>
1 0	3 友達と発表をし合いながら、表現内容を再考する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ “I want ….” と “Stop…” どちらがより強いメッセージになるんだろう？ Jason 先生に聞いてみよう。</li> <li>○ これまでの動物の自己紹介の最後に今日考えたメッセージをつなげてみたけど、伝える順番を入れ替えたほうがよさそうだな。</li> <li>○ 人間へのメッセージや困っていることの理由を添えれば思いが伝わるな。</li> <li>○ 動物になりきってしっかりと思いを伝えることができた。友達の言っていることも大体わかった。</li> </ul>
8	4 本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今日は動物の思いがより伝わるように英語を考えることができたな。</li> <li>○ 友達や先生と話しながら、自分なりの表現で伝えることができた気がする。</li> <li>○ 次回はいよいよポスター作りだ。文字やイラストで見ている人に動物の思いが伝わるようにしたい。</li> </ul>



前時までに自分が選んだ動物について、住む場所や食べ物、その動物の特徴を表す英語表現に触れてきた子どもたち。本時では、単元の Goal であるポスターで、読み手にどんな思いを伝えたいのかを考えていきます。どんな表現を用いるとよりよく伝わるのか、内容を再考する子どもの姿を目指します。

主体的・対話的で深い学びを生み出す教師の支援（発問・指示・教具・評価）

- 作成するポスターについて、誰に何のために向けるものなのか、読み手にどのようなことを思っ欲しいのかを問うことで、子どもたちと目的や伝えたい相手を共有し、動物の立場に立って伝えたいという思いを想起することができるようにする。
- 相手に伝えたい動物の思いを日本語で出し合う場を設定し、どのような英語表現を用いるとより伝わるのかを問うた上で本時の課題を設定する。

どんな表現を使うと動物が困っていることが伝わるのだろう。

- 活動に入る前に、子どもたちが想起した“I want ---.”や“Stop ---.”などの表現の練習をALTとその場で行うことで、表現や意味の違いをもう一度確認し、子どもが伝えたいことに応じた表現を選択することができるようにする。
- 活動の中で伝えたい日本語を上手く英語にできない児童の思いを見取り、全体で取り上げ一緒に考える場を設定する。  
例えば「森林伐採をやめてほしい」という思いであれば「森林伐採」という言葉を「それって森林をどうすることなのか？」など問い返すことで「木を切るのをやめて」や「森を守ってほしい」など平易な言葉や表現に言い換えることができるようにする。その上で“Stop cutting trees.”や“Save the forest.”などの既習の英語表現に子どもとともに言い換えていく。
- どう表現するか迷っている子どもには「何て伝えたいの？」「（模造紙の表現を示し）どの言い方なら言いたいことに近付きそう？」などと声をかけ、子どもの思いを見取りながら、子どもが伝えたい思いとそれを表す英語表現とを子どもとともに考えていく。
- 児童の表現やその言葉を選んだ思いを全体で共有したり、ALTに伝わるニュアンスの違いを尋ねたりすることで“I want ---.”“Stop ---.”“Save---.”等の本時用いる表現のもつイメージを膨らませ、自分の思いに応じた表現を選択することができるようにする。
- ペアやグループで発表し合う場面では、話し手（動物の立場）・相手の立場を明確にし、発表に対するリアクションをするよう促すことで、話し手が伝えたい内容が聞き手に伝わっているかどうかを確認することができるようにする。
- 本時の自分の発表を音声として残しておくことで、ポスター作りの際にそれを聞きながら書き表すことができるようにする。
- 本時、新たに加わった内容や見直した英語表現を振り返る場を設定することで、子どもが自分の英語表現のよさに気付くことができるようにする。
- 振り返りに書いたことをいくつか交流することで、友達の思考過程や表現のよさや自分との違いに気付くことができるようにする。

#### 【教材・教具】

- 動物の思いを伝える英語表現をまとめた模造紙

#### 【評価】

動物の思いを伝える文を追加し、自分の発表内容を再考し伝え合うことができる。  
（観察・振り返り）